

第 5 回部会への情報提供（山口委員提出資料）

私からの提案は以下の 3 つです

1. 小さな居場所をたくさん増やす

相談機能を集約するのは仕方ないとしても、小さな居場所をたくさんつくる必要があると思います

もっと市民の力を活用して居場所をたくさんつくり、区民が誰でも、徒歩で行ける場所に、自分に合う居場所が見つけれのが理想的です

また、それぞれの居場所の運営者が市民性を発揮（＝おせっかい？）することで、適切な専門家や制度につなげることが可能になると思います（見立て力の向上）

世田谷区の「おでかけひろば」のように

「ベビーカーやお子さんの足で歩いて 15 分ほどの距離」

ぐらい明確な指針が必要かと思います

2. 教育と福祉、地域の連携

せっかく出前授業の「学校支援ネットワーク」のような先進的な取り組みがあるのだから、他のところでも積極的に地域社会との連携を図るべきかと思います

墨田区は元々、地域力の高いまちなので、コミュニティスクールや部活の地域移行なども積極的に進め、地域の有志が気軽に参画できる体制にシフトしていくのが良いと思います

また、教育現場に福祉の視点を持った人が少なすぎます

特に発達特性、HSP などについて、学校はもっと知識を持つべきです

学校の教師などと福祉人材の交流の機会を積極的に持てないでしょうか

3. 年代や属性で区切らず、一人の人間の成長を見守る体制

人間を個別に認識し、包括的に見守る体制をつくりましょう

異なる部門間でも情報の共有を行い、多角的な視点から適切な居場所や支援につなげていく

これが結果的に、制度の狭間をなくし、孤立を防ぐことにつながると思います

【参考】

先日お話ししたコミュニティナースも、おせっかいを掲げて活動しています

12/14 に「GOOD おせっかいアワード 2024」が開催されるので、参考まで

<https://good-ossekai-award.hp.peraichi.com/>

今年は 200 以上の「おせっかいストーリー」が寄せられているとの事です

https://note.com/cnc_note/m/mcb02f39a961d